

各種新聞圖解の内
横濱毎日新聞
 第六百廿一號

横濱港吉田町。清正公の境内に鶴壽
 と号し揚子場矢取女のおみきとてい
 廿六充ぬ年齢頗る姿色ゆるといふ
 當と争入質多き中鍛冶工定吉の
 おみきお意慕の念深く氣息艶言の
 餅を引逆せ鍛冶グチイフウと煩惱の
 火を鉄心を銷き吹草祭の頃更團て
 おみきか許に至る小下慕人の音信決句
 持病の癩に偽り強面詞定吉今宵
 本望遂あんと慮胸の鉄極もトンケン
 コと打ぞんされ兼て用意やまうり
 乃懐刀取出し自ら咽へ突立まふ這
 驚くおみきを現け短刀抜取投付
 横み當りて怪我もあ。其身も
 死よら至らねと禰夫の情死馬中の
 愚奇中の奇話といふべし。

樽々堂鈍々記



解高永澤



政榮堂